

令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価（3月24日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①進路希望の実現に向けた確かな学力の育成と生涯学習の視点に立った幅広い教養を身につけさせるカリキュラムマネジメントを行う。</p> <p>②主体的に学ぶ意欲を高めるための充実と組織的な授業改善に積極的に取り組む。</p>	<p>①生涯学習の視点から、基礎的な知識の定着と探究的活動による確かな学力を育む。その結果として進路の実現へと取り組む。また、新カリキュラムを充実させ、定着させる。</p> <p>②生徒の主体的な学習活動に結びつく学習環境の整備を行う。</p>	<p>①各科目で探究的な授業展開を通して、生徒が個々に興味を発展させる学習に取り組む。また、ICTを活用し学習形態や共通テスト等の分析を行い、充実させる。</p> <p>②フォローアップ週間やスタディサプリの活用を通して、個々の生徒への支援を充実させる。自習室の整備・活用を推進する。主体的な学習活動を引き出せる授業改善に努める。</p>	<p>①各教科で生涯学習の視点を踏まえ、探究的な授業を展開させることができた。</p> <p>②フォローアップ週間や講座開設や参加人数、スタディサプリの活用を基にした生徒の割合が増えたか。</p>	<p>①各教科で生涯学習・探究的活動・ICT活用の視点を取り入れた授業改善研修会を行った。</p> <p>②フォローアップ週間については、様々な形態と講座開設数を増やすことができた。自習室の整備が進み、多様な形での利用が増えた。</p>	<p>①さらなる授業力向上を図る必要がある。また、一人一台端末の導入が進む中で各教科の取組と積極的な活用を進めたい。</p> <p>②より積極的に生徒のニーズに合う講座の設定を工夫する必要がある。自習室については、1・2年生の利用を増やすことに力を入れる。</p>	<p>・総合的な探究の時間では、生徒が自ら設定した課題に対し、その解決に向け仲間と協働しながら主体的に取り組んでいる様子が伺える。今後は各教科においても、同様の取組を進められるよう授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>・スタディサプリのさらなる活用促進と、整備が進んだ自習室の利用が、特に1・2年生に広がるよう周知等を工夫する必要がある。</p>	<p>・総合的な探究の時間では、テーマや課題設定が重要となることから、課題設定の段階で時間と指導の充実を図る。</p> <p>授業改善では、数年間の単位で学校としてのテーマを設定し取り組まなければならない課題もあることから、計画性を持って継続して取組を進めていく。また、一人一台端末の導入に伴う各授業での具体的なICT活用についての研修等を企画する。</p> <p>・スタディサプリアや自習室の活用については、生徒に様々な活用事例を示し、積極的に呼びかけることで、特に1・2年生の活用を促したい。</p>	
2 生徒指導・支援	<p>①他者を尊重し、認め合う人間性や社会性を育み、主体的な規範意識を育む。</p> <p>②生徒の主体的な活動としての部活動を支援する。</p> <p>③生徒に寄り添い、生徒理解を深めることで、健全な生活が送れる支援を行う。</p>	<p>①「西高プライド」を意識した服装や行動などのマナーを徹底する。</p> <p>②部活動や学校行事、その他の学校活動を通して、主体的に行動できる生徒の育成を支援する。</p> <p>③(1)教育相談体制を充実させ、個に応じた支援体制を整備する。</p> <p>(2)いじめを起させない環境づくりに努める。</p>	<p>①服装を中心に、遅刻、授業規律、自転車乗車マナー、SNSの使い方等について段階的かつ継続的な指導を行う。</p> <p>②生徒会、部長会、委員会等を定期的に開催し、生徒の意見を吸い上げ、生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>③(1)コーディネーター会議を充実させ、生徒情報と支援方針の共有に努める。</p> <p>(2)いじめアンケートや個別相談のほか、生徒間、教師と生徒間のコミュニケーションの充実を図る。</p>	<p>①登下校の制服着用を中心に、指導件数が減少し、地域社会の一員としての規範意識が育まれた。</p> <p>②学校行事後や部会長会等でアンケートを実施し、生徒の主体的な活動ができているか、満足できる学校生活を過ごしているか。</p> <p>③(1)コーディネーター会議の定例開催で生徒情報と支援方針の共有を図れた。</p> <p>(2)いじめの早期発見といじめの起さない環境づくりができた。</p>	<p>①指導基準を作成したこと、身だしなみについての改善がみられた。自転車乗車マナーについては十分な成果が得られなかった。</p> <p>②行事後のアンケートで全体的には7割以上の生徒が主体的かつ満足した活動であったと回答した。</p> <p>③(1)各学年1名のコーディネーター配置が3年目となり、コーディネーター会議が頻りに開催され生徒情報の共有が進んだ。</p> <p>(2)担任副担任と面談も実施し、生徒とのコミュニケーションが取れ、いじめの起さない環境づくりができた。</p>	<p>①身だしなみ指導の指導基準が作成されたが、生徒が主体的に行動できるよう工夫がさらに必要である。校内での主体的な行動が、地域でのマナー向上に繋がるよう努める。</p> <p>②生徒の主体的な活動がコロナ禍で制限されていたが、コロナ禍で得た経験も活かしながら、生徒の主体的な活動範囲を広げていく。</p> <p>③(1)生徒情報共有を行い、組織的な相談体制の確立を継続して行う。</p> <p>(2)生徒が主体的に行動できるよう指導し、社会性や人間性を養っていくことのできるよう対策を継続する。</p>	<p>・自転車乗車マナーの向上については、自らや相手の命を守ることに繋がることから、継続して粘り強く指導を行うことを求める。</p> <p>・4月からの自転車乗車時のヘルメット着用については、生徒の命を守るという視点からも、学校としての取組を進める必要がある。</p> <p>・西高はコロナ禍においても、学校行事を工夫して実施しており、このことは評価に値する。</p> <p>・情報共有シートの活用については、昨年度の評価報告にも挙げていたが、とてもよい取組であると考えている。今後もいじめや問題行動等の早期発見・解決に向けて取組を継続することが大切である。</p>	<p>①身だしなみ指導についての指導基準を作成したことにより、指導が必要な生徒への職員の声かけが増え、生徒に考えさせる環境ができた。さらに、生徒が主体的に考え行動できるよう指導方法に工夫が必要である。</p> <p>②コロナ禍においても、生徒たちの主体的な活動に磨きをかけることができ、全ての行事を実施できたことは本年度の大きな成果である。</p> <p>今後の課題はコロナ禍で積み上げた成果をどのように活かしていくかである。</p> <p>③教育相談コーディネーターを中心とした教育相談会議の開催が定着し、各学年等からの情報共有は概ね図られた。今後は、情報をもとに個人面談を適切に実施し掘り起こしを図ることで、教育相談を未然に防いでいけるよう取り組むことも重要である。</p>	
3 進路指導・支援	<p>①生徒の自己理解を深めさせ、将来に希望が持てるキャリア教育を行う。</p> <p>②社会の一員として、自己肯定感をもって社会に貢献できる人材を育み、具体的な職業観を育む。</p>	<p>①自己と社会のつながりを探究し、長期的な目標設定を行い、必要な能力を、主体的に考え、卒業後の進路選択につなげる。</p> <p>②高い目標設定により、分野問わず積極的に進路実現を目指す。</p>	<p>①総合的な探究の時間と関連づけ、キャリア教育を計画し、相乗効果をもたらす。</p> <p>②(1)昨年に引き続き各学年に明確な目標を掲げ、大学進学に対する高い目標を設定できる</p>	<p>①総合的な探究の時間で得た主体的な学びが、各教科の活動に生かされ、高い目標設定における進路実現ができた。</p> <p>②(1)キャリアパスポートによる振り返りの中で、自己</p>	<p>①総合的な探究の時間と関連づけ、個々の進路実現に向けて、分野を広く考える内容を実施した。</p> <p>②(1)キャリアパスポートによる振り返りで現状を把握し、次なる目標に必要な活動に繋</p>	<p>①総合的な探究の時間で得た学びが、高い目標の進路実現とどうつなげるか、学年内での認識だけではなく全体的に見える化し、より具体的な活動に結びつける。</p> <p>②(1)キャリアパス</p>	<p>・高い目標に導く取組については、高い目標のとらえ方が難しくわかりづらい部分もあったが、具体的な大学等ではなく、自らの意識や意欲を高めるということがわかり納得できた。今後も継続して取組を進めてほしい。</p> <p>・放課後出前授業や大</p>	<p>・高い目標に導く取組については、R4年度卒業生の受験に向けた取組を振り返ると、昨年度以上に多くの生徒が、一般受験において国公立大学や私立大学の難関校へ挑戦した。合格者数の増加には至らなかったが、自らの可能性を現状にとどめることなく、前向きに高い目標をもって挑戦したと考えられる。さらに最</p>	<p>・具体的に目標を設定させ、キャリアパスポート等を利用して現状を把握させる。また、これから必要な学びについて、自ら考えさせる機会を増やしていく。生徒が興味はあるが、一歩踏み出せないままとならないように、放課後出前授業等を活用することで、知識や経験を広げ、自らの可能性をとどめることなく、前</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	む。	動し、挑戦する精神を育むと豊かな教養を身につけ、社会に貢献できるよう生徒を支援する。	進路ガイダンスや放課後等を利用した体験授業等を実施し、キャリア教育の機会を増やし、自主的に参加・活動する習慣を定着させるとともに、学校と職業の学び場と意識させる。	分析し、次のステップへの蓄積ができてきているか。また、その蓄積内容を行なったか。(2)多くの生徒がキャリア教育活動に積極的に参加し、意識し、全体の進路状況がより良く拓けたか。	ることができた。(2)放課後出前授業や大学ガイダンスの内容を充実させ、高い目標に導けるキャリア教育の機会を増やし、生徒の積極的な参加数が増えた。	ポートに蓄積する内容からさらに深い自己分析につながる、人生設計と関連付けできるようにする。(2)放課後出前授業を生徒の高い目標設定に必要な内容にさらに変えていく。	学ガイダンスについて、大学進学に焦点を絞ったことで、昨年度より参加人数が減少したとのことであるが、その中でもより多くの生徒のニーズに沿った事業を展開すれば、参加人数の拡大を図れると考える。	後まであきらめず挑戦し合格者数が増えるよう、校内での取組を考える必要がある。 ・放課後出前授業や大学ガイダンスでは、大学進学に焦点を絞って開催したが、アンケート等では前向きな意見が多かったことから今後の開催内容は生徒のニーズに合わせて、内容を検討する。	向きに挑戦できるよう支援していく。 ・放課後出前授業や大学ガイダンスでは、生徒のニーズを把握し、多くの生徒が参加するとともに、参加した生徒が高い目標を設定できるような内容やテーマの設定を行う。
4 地域等との協働	①地域との連携を深め、開かれた学校づくりに積極的に取り組む。	①(1)地域に開かれた学校となるべく地域活動を積極的に行う。 (2)生徒や保護者、地域に対して学校の情報を発信・伝達し、意見要望を参考に良い学校づくりを行う。	①(1)地域貢献デー、遊ing西高等に多くの生徒が主体的に参加し、開かれた学校づくりを行う。 (2)ICT機器やお知らせメール・Gsuiteの整備活用により、生徒や保護者への速やかな情報伝達に努める。ホームページの更新回数を増やし、内容・レイアウトの工夫改善を行い、地域や保護者の良さを発信していく。また、地域との連携・協力を積極的に寄与せられた情報・意見により良い学校づくりへ生かす。	①(1)生徒の参加人数や訪問先が増えたか。地域の方が満足できる行事となったか。 (2)ICT機器の整備状況やメール配信回数・登録者数の割合が増えたか。ホームページ更新回数とともに、内容の充実が見られたか。保護者・地域から寄せられた情報・意見により学校運営が改善されたか。	①(1)本年度、地域貢献デーは1・2学年共に開催することができた。また「マイミライ」や「ポイ捨てなく隊」等の地域活動行事にも生徒が主体的に参加し、地域の方々と交流を深められた。 (2)本年度ICT機器に関しては、Wi-Fiの設備を新たに増やすことができた。また、プロジェクトも台数を増やしオンライン授業に対応することができた。ホームページの更新回数は増やすことができなかったが、行事ごとに発信することができた。	①(1)地域交流事業への参加を増やしつつ、地域に根ざした学校としての意識を高めていくことが課題である。 (2)マチコミメールやホームページ更新の頻度を増やし、本校の良さを発信する機会を増やしたい。また、地域から寄せられた情報を学校運営に活かす工夫をする。	・西高は地域とのつながりを大切にしている。小中学生とは違い、高校生は地域の生徒とは限らない。他の校種と比較すると連携は難しいと考えるが、教員が日ごろからよく指導していることが大きいと思う。 ・ホームページの充実には地域への情報発信にもつながることから大切な業務の一つと考えたが、反面、教員の業務負担にもつながる。マニュアル等を作成し、誰でも容易にホームページに掲載できるよう業務改善を図ることが必要と考える。	①(1)コロナ禍の中においても少しずつ地域との交流が復活し、生徒会本部役員を中心に、主体的に取り組む姿勢が数多くみられたことが大きな成果である。今後の課題としては、生徒会本部役員以外の生徒への広報と積極的な参加を進めることである。 (2)ICT機器に関しては、教室や特別教室へのWi-Fiの設備を増やすことができた。プロジェクトの保有台数を増やし、オンラインによる授業配信に対応することもできた。しかし、ホームページの更新に関しては、昨年度と比べ回数を増やすことはできなかったため、来年度への課題としたい。	①(1)全生徒、全職員に地域交流に関わる事業の一層の周知を図り、本校が地域コミュニティの中心的存在として一役を担えるよう、意識と参加率を高めていくことである。 (2)ICT機器を活用した授業やオンライン授業のために、必要な物品を購入し、職員の負担軽減に繋げていきたい。ホームページについては、ひな形を作成し、業務担当者以外でも更新作業が進められるように工夫する。
5 学校管理 学校運営	①生活全般の安全意識を高め、自らを守る防災意識を育む。 ②豊かな心を育む環境整備に努める。	①生徒・職員の防災意識を高め、指導を行うとともに、学校全体で大規模災害時の対応を検討し、災害に備えて準備を進める。 ②校内や校舎周辺の環境の整備・美化について環境整備委員、保護者や地域と連携しながら生徒の意識を高め、学校を大切にすることを育む。	①(1)年2回の防災訓練を通して身近な防災への知識や対応力を養成したり、自らの命を守る行動や社会に貢献する態度を育てる。防災マニュアルを活用して職員の危機管理や防災意識を高める。 (2)防災用具等を充実させ、適切に管理・保管する。適切な使用方法について共有できたか。 ②(1)PTA環境整備委員会との連携を月1回程度行うことができたか。 (2)生徒環境整備委員を動かし、校内各箇所が適切に清掃され環境美化意識が醸成されたか。	①(1)防災訓練計画に基づいて年2回の防災訓練を実施した。第2回防災訓練については、学年ごとにDIG、HUG、消防署による消防訓練など体験的な活動を通して、自助・共助の態度を身につけさせることができた。 (2)防災用品を整備し、防災マニュアルによる職員への周知・防災意識向上を図った。 ②(1)PTAと連携し、正門周辺の花植えの管理を実施した。 (2)生徒環境整備委員を中心に清掃分担に従い、日常的に校内美化に取り組ませた。	①(1)1～3学年の防災プログラムが完成したので、3年間実施したところで再検証を行うことが必要である。 (2)防災マニュアルを活用した研修をより充実していく必要がある。 ②(1)引き続きPTA活動と連携した取組を進めていきたい。 (2)職員の清掃点検を定期的実施したところ効果が見られ、継続して行っていく。また、生徒の校内美化に対する意識を高めていく必要がある。	・防災教育はとても重要な教育活動の一つである。高校生として、高校生に求められることとして、自助・公助の精神の育成に向け、今後も継続して計画的な防災教育を実施していく方針はとてよいことである。 ・防災マニュアルを作成して終わりではなく、作成したマニュアルを有事の際に実践できるかが問われる。次年度は教員研修の充実が図られるよう取り組む必要がある。	①(1)4月に火災を想定した避難行動訓練、9月に1学年はDIG、2学年は消防訓練、3学年はHUGを実施した。実施したのち反省や課題等をその都度記録して、改善していくことが必要である。 (2)防災用品として発電機(スマートフォン、PC、タブレット用)など、より必要性の高いもの、実用性のあるものを中心に充実させた。また、職員へは防災マニュアルを配付して防災意識の向上を行った。 ②(1)PTAの協力を得て、年間を通して正門周辺を中心に花壇の整備を実施した。 (2)生徒の環境委員による清掃点検に加えて、職員による清掃への呼びかけや点検を実施し、校内美化へ意識の醸成を図った。	①(1)防災訓練の授業者である職員自身が防災プログラムの目的や意義、実施内容や指導法を理解し実行することが求められる。したがって、防災員を中心に職員へ対して防災授業の事前研修を実施し、防災教育への理解と実行を担うスキルを育成する。 (2)防災マニュアルを活用して職員の防災意識を醸成していく研修や効果的なプログラムを考案し、実行する。防災用品の充実については、教育のデジタル化に対応するための防災用品という視点で検討することが必要である。 ②(1)PTAとコミュニケーションを取り、環境美化に取り組んでいただける環境づくりを図る。 (2)生徒の環境委員の点検と、職員による清掃への呼びかけ・点検という両輪で実行することで、日頃からの環境美化意識を醸成していく。	